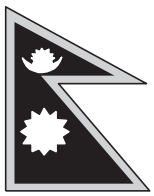
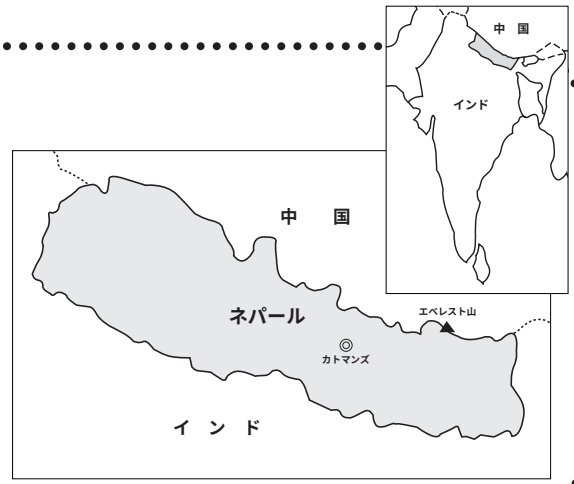
「ユニセフ子ども物語」

地球に生きる子どものくらし

Kingdom of Nepal

ネパール王国



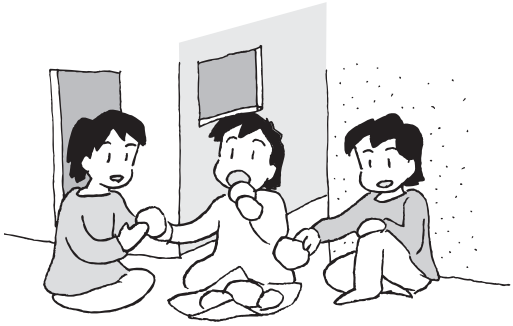


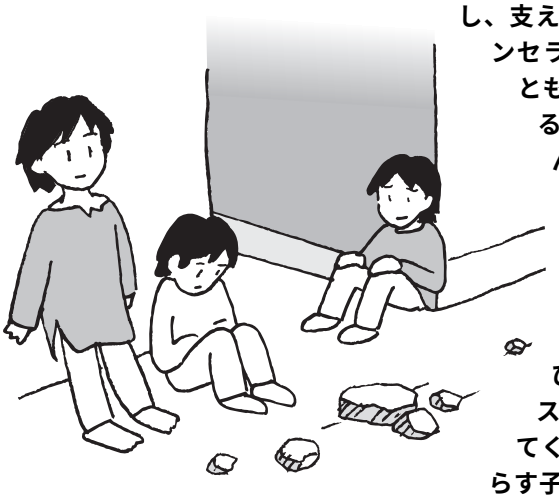
今日を生きる子どもたち

ネパールの ストリートチルドレン

毎朝7時、14歳の少年ゴペールは大きな麻の袋をかついでナイト・シェルター（寝泊まりできる施設）を出ます。通勤の人びとで街がにぎわう前に、路上に捨てられたビニール袋やプラスチックの空きビンを拾いに行くのです。街のはずれにあるリサイクルセンターではこうしたプラスチックの「ゴミ」を1キロあたり14ルピー（日本円で約28円）で買い取ります。このわずかなお金がゴペールの生活費です。

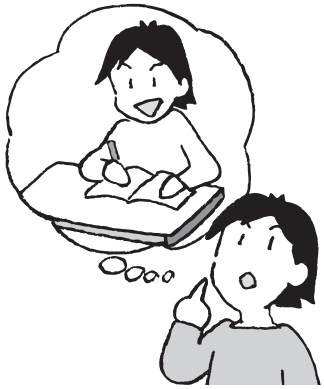
ゴペールがカトマンズに出てきたのは5年前。それまではネパール東部の小さな村に住んでいました。おとうさんは「借金を返すために」インドに働きに行ったきり帰ってきません。おかあさんは仕事をさがしに、幼い兄弟を連れてカトマンズへと出てきました。しかし、なかなか十分なお金が得られません。ついにおかあさんは、2人をおいて他の男の人と結婚してしまいました。
現在ネパールには、路上で寝泊まりしたり、働いたりしている「ストリートチルドレン」が約30,000人。病気、事故、誘拐など、つねに危険ととなり合わせに生きています。この子どもたちは、親が面倒を見てくれない、暴力をふるわれるなどの理由で家を出て、路上の生活を始めました。





お昼過ぎ、いつもの空き地でゴペールが昼寝をしていると、シェルターの友だちがやって来ました。ゴペールに気づくと、ニコっとほほえんで、右手に持っていた白いビニール袋を軽く振ります。お昼ご飯を調達してきたようです。食べるときはみんないっしょ、どんなに量が少なくても分け合います。
「さびしくはないよ。シェルターには友だちや、ぼくを理解し、支えてくれる兄貴みたいなカウンセラーがいるからね。」彼らとともにシェルターで寝泊まりするカウンセラーのビルマンさん。いつもみんなの輪に入り、勉強の手伝いをしたり、話を聞いたりしています。でも、やさしいばかりではありません。「一度タバコを吸ってるのを見つかって、ひどくしかられたよ。」他のストリートチルドレンが教えてくれました。親とはなれてくらす子どもたちは、みんなビルマンさんを頼りにしていて、みんなビルマンさんのようになりたいと思っています。

「ぼくも将来は学校にもどって勉強して、ストリートチルドレンを救うための仕事がしたいんだ。ぼくたちに必要なのは教育だよ。」ゴペールの目が輝きました。



ネパールで ストリートチルドレンと呼ばれる子どもたち

世界には1億人以上子どもたちがストリートチルドレンとして、道ゆく人にお金をねだり、くつをみがき、車の窓ガラスをふき、小銭をかせいで生活しています。こうした子どもたちは中南米、アジア、アフリカなど、地域に関係なく厳しい生活を強いられています。

©日本ユニセフ協会

ネパールでは「おとなに守られることもなく、路上で長い時間過ごす16歳以下の子ども」をストリートチルドレンと呼びます。ネパールにいる30,000人のストリートチルドレンは3つのカテゴリーに分けることができます。

①完全に路上でくらしていて、空き地や歩道で寝泊まりしている
②家族とくらしているが、1日中路上でゴミ拾いや荷物運びをしている
③ホテルや食堂ではたらいているが、仕事をやめてしまうと、次の仕事が見つかるまで路上でくらしている

家族とくらしていても、いなくても、下に書いてあるような仕事をしている子どもは「ストリートチルドレン」と呼ばれます。

①観光客の荷物運び
②ゴミ拾い
③屋台の店番
④物乞い

街に出てきた理由

①仕事と収入の機会を求めて
②友だちにさそわれて
③家に十分な食べものがない
④親の再婚相手にいじめられる
⑤親の死
⑥親の酒癖が悪い・暴力的である
⑦都会にあこがれて
⑧都会には良い仕事があって、生活がしやすいなどとだまされて
⑨学校へ行って勉強がしたいのに、村には学校がない
⑩物を盗むなど、良くない行動をしたために都会へ逃げてきた
⑪家から追い出された
⑫親が世話をしてくれない

さまざまな理由で農村から都会にやってきた子どもたちですが、家族とはなれて一人で生活していくのはとても大変です。仕事もなかなか見つからず、見つかっても給料をきちんともらえなかったり、理由もなくやめさせられたりします。お金がなくなってしまうと、子どもたちは路上で生活するようになります。

ユニセフの対策

ユニセフは村の生活が便利になって良い仕事が見つかれば、都会へ出てきて、ストリートチルドレンになる子どもは少なくなると考えています。そのために村で勉強できるようにしたり、井戸やトイレ作りを支援したりして村の生活の改善に努めています。

すでにストリートチルドレンになってしまっている子どもたちには、立ち直れるように手助けしています。ストリートチルドレンが立ち直るためには、自分自身が「今の生活を変えたい」と思うことが大切です。やる気のある子どもたちに対してユニセフは、字の読み書きを習わせたり、仕事に必要な技術を習わせたりできるように支援します。こういう支援によってストリートチルドレンたちは、路上の生活からぬけ出し、自分の夢に向かって進んでいくのです。

子どもたちの明るい未来は村の改善から　©日本ユニセフ協会